

地域振興に関連する後志漁村地域の特徴の整理

- 1) 立地条件，交通条件，観光客入り込み状況，漁業・観光への取り組み，施設環境，祭り・イベントの開催状況等の項目について既存資料や現地調査より抽出し，後志漁村地域の特徴を分析，整理する．
- 2) 平成 13 年度調査時に行ったアンケート調査より，住民の交流事業に対する意識や意向の特徴を分析する．
意識・意向調査

後志漁村地域における重要な地域資源である，水産物，海洋性レクリエーション等を考慮しつつ，観光関係者等を対象とした意識・意向調査を行う．

- 1) 地元住民(供給・提供サイド)の意向調査
地元観光関係者(民宿経営者，直販関係，海レク関係者等)を対象に，地域振興への意向に関する調査を行う．
- 2) 来訪者(需要サイド)の意向調査
民宿宿泊客，海レク等の施設利用者等を対象に，当該地域の観光のあり方への要望や地域振興に関する意見を収集する．

地域振興のための方向性についての検討

- 1) 地域振興に関する問題点と課題の整理
地域の特徴や意向及び，水産物や海洋レクリエーション，その他の地域資源等を考慮した地域振興を検討した際の問題点や課題を整理する．
- 2) 地域振興推進の方向性の検討
整理された問題点や課題から，後志漁村地域の振興推進の方向性について検討・提案する．
後志漁村地域の地域振興推進方策の検討と提案
上記調査を踏まえ，当該地域の地域振興推進に向けての具体的方策について，検討・提案する．

3. 主な調査結果

3.1 地域振興に関する問題点と課題

<p>1. 漁業の持続的発展を</p> <p>構造転換の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁村集落は沿岸部に小さな集落が張り付いて形成され，漁家の経営規模は道内の平均的な規模より小さい．ホッケやスケトウを中心とする水産物は単価も低く，道内他地域と比較して必ずしも恵まれた漁業環境とはいえない． ・ これまで地域の基幹となってきた漁業は，平成 3 年をピークとして，水揚げ数量・金額ともに減少をたどっており，とくに金額では半減に近い状況となっている．これに関連して，就業者の高齢化，資源の枯渇，労働環境改善の遅れ等によって，地域の漁業から産業としての魅力が急速に色あせつつある． ・ 生産の現場では，養殖や磯根資源の中間放流の実施により，「つくり育てる漁業」の推進を図っているところであるが，漁業生産全体の構造を転換するには至っていない．現状のままでは，地域の漁業の衰退は時間の問題であり，問題が深刻化しない今のうちに，何らかの抜本的な構造転換が必要だといえる． ・ 沿岸には小規模な漁港が点在しており，利用率は必ずしも高いとはいえない．これまでの投資を活かす意味でも，“漁港の高度利活用策”を考えることも必要である．
--

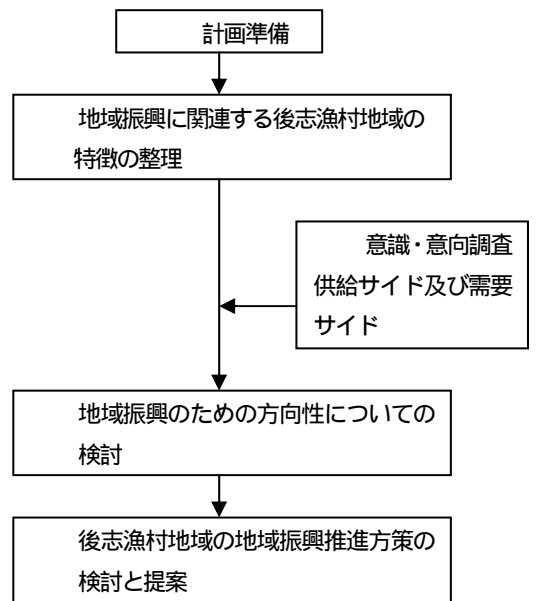


図-2 調査フロー

ブルーツーリズムの必要性

- ・漁業者の意識の中にも、漁業だけで生計を立てていくことは困難になってきたとの認識が芽生えはじめており、何とか現状を打破し、地域に活気を取り戻したいとする気運は見え始めている。
- ・漁業を将来にわたり魅力ある産業として持続可能な発展を目指すためには、生産のみに依存する漁業経営からの転換が求められている。そのひとつの方向が漁業と観光との結合（ブルーツーリズム）であり、漁業の枠組みを広げていくには好機が訪れているともいえる。
- ・海を生産の場としてだけでなく、海（水面）そのものの利活用方策や、魚などの海に関する様々な資源、漁港など、海や漁業に関連する資源を体験や交流のための場としてとらえるべきである。
- ・資源を様々な活用することで漁業者に活躍の機会を創出し、関連するビジネスを起こし、地域の活力を生み出すという新しい大きな流れを作り出すことをひとつの方向として位置づける必要がある。
- ・ブルーツーリズムの推進には、漁業者と観光事業者（民宿など）との連携方策が実現の可能性を握ると考えられるが、調査によれば民宿事業者の意識は高く、地域内に共同の推進体制を目指すべきである。

2. 可能性広がる観光

“積丹観光”の拡大を目指す

- ・平成 8 年の積丹半島一周道路の完成を契機に、後志地域への観光入込客は大幅に増加した。ここ数年はひと頃ほどではないものの、依然として順調に推移している。
- ・圏域の観光入込の分布は一樣ではなく、圏域への入口にあたる「小樽市」では全国ブランドの観光地として年間一千万人の入込があり、そこで提供される観光のスタイルも歴史や文化を中心とした周年型の都市型観光であるなど、他の後志地域とは一線を画している。
- ・小樽を除く後志漁村地域は夏場の「日本海」を中心とする観光入込であり、「海」に関わるアウトドアレジャーに関する観光資源が多い。近年では、これに「温泉」が加わり、周年型を目指す動きが見え始めている。
- ・本地域への大きな観光の流れをみると、「札幌～小樽～余市～積丹半島～神威岬」といういわゆる“積丹観光”をひとつの流れとして確認することができるが、この動きはそこから半島を一周しさらには南後志までは至っていない。

高く評価された資源と“潜在的”資源の活用

- ・アンケートの結果、民宿の宿泊者の約 70%、浜辺のキャンプ客はほぼ 100%が道内客であることから、本地域を来訪する大多数の人が道内からの観光客であると考えられる。
- ・道内からの来訪者はキャンプなどの「アウトドアレクリエーション」を中心としているのに対し、道外客では「自然観賞型の観光」を中心としているなど、道内客と道外客の観光パターンは異なっている。
- ・来訪者の評価は高い。アンケート結果からも、「自然」、「海」、「新鮮な海の幸」の魅力をあげる意見が多く見られる。また、地域内のキャンプ場では、毎年必ず来ている“常連キャンパー”もいる。
- ・本地域に対する観光ニーズは、まだ顕在化していないものを含めるとかなり高いものと判断でき、その具体的な方向は、「海」や「漁業」などを観光資源として活用することであろう。

大市場に近い利便性を活かす

- ・後志地域は小樽という大観光地を管内に持ち、全国から多数の観光客が訪れている。また、札幌近郊 100 万人の大市場に近接しており、潜在的なマーケットとしては非常に恵まれた立地条件を有している。札幌方面から「最も近い海」という立地性を最大限に活かすことが必要である。
- ・一般的には「積丹半島」や「神威岬」はひとつのイメージを形成していると言えるが、これが後志沿岸地域全体のイメージにはなっていない。したがって、いかに積丹半島を一周して、観光流動を広げるかがポイントとなるであろう。
- ・直売所における地元産品を見ると、加工品や冷凍品が中心で、生きのよさや当地ならではの物産が少ない。積丹半島、後志地域といえば、海のイメージが強いが、これを感じさせるものがない。せっかく来訪者に購買意欲があっても、当地で購入するものがなければ経済効果は限られたものになってしまう。

3.2 漁村地域振興の基本的方向

(1) 全体方針

体験や交流を提供する地域

人々が求める“地域での生活体験や交流・ふれあい”を重視。

広範な参加と取り組みにより実現

漁業だけ、沿海地域だけでなく、後志20市町村の第一次産業を幅広く連携させた、体験・交流をテーマとする、総合的な体験交流産業の確立を目指す。

漁村地域が担うブルーツーリズムの推進

漁業や自然と言った地域資源の活用と、地域住民の理解と協力によるブルーツーリズムの推進。

(2) 共通の取り組みによる共通イメージ

共通の視点と共同の取り組み

各市町村が「後志」という一つの地域として共同の意識で取り組むことが必要。

体験交流を地域の共通イメージとする

広域連携による体験交流型観光の推進（図-3 参照）。

(3) ブルーツーリズム推進の基本方針

基本方針

- ・ 海と漁業に関する資源の活用
- ・ 漁業者自らが取り組み可能な「体験・交流」を柱
- ・ 多様な人材と組織の活用による実現

テーマ

- ・ 漁業・漁港・食等、海に関する資源の最大限の活用
- ・ 地元におけるソフト面の仕組みづくり

誘客ターゲット

- ・ 誘客圏の想定（札幌近郊都市住民から道内各地、道外客の獲得への実績づくり）
- ・ 活動スタイルの想定（来訪者の属性による活動スタイルの想定と対応）

(4) ゾーン別振興方針

- ・ 周辺地域との関連やこれまでの地域の取り組みから、力点を置くテーマが異なってくる。
- ・ 本計画では後志漁村地域の海岸部を5つのゾーンに区分し、それぞれに振興の方針を設定した（図-4 参照）。

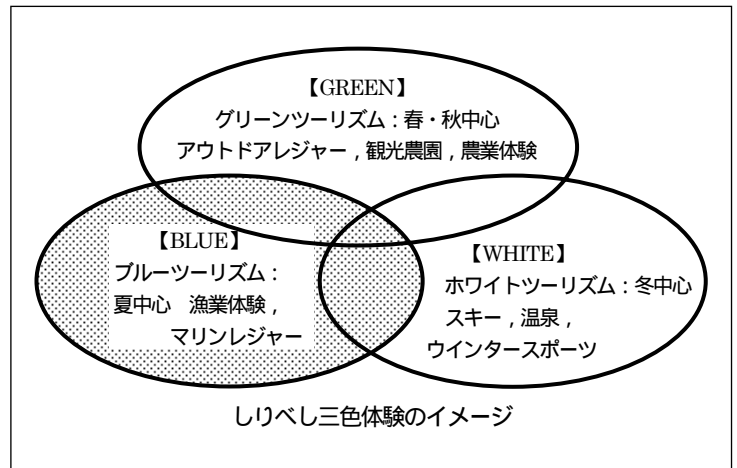


図-3 広域連携による体験型観光のイメージ



図-4 ゾーン区分と振興方針

3.3 具体的方策の提案

海の体験メニューの収集

漁業の現場に基づく体験の提供

遊漁案内・観光定置網・市場見学やセリ見学・水産加工体験・フノリ採り・稚魚や稚貝の放流体験・海象や海流の話・魚種と漁法・魚の捌き方や漁師料理教室 など

地域に埋もれた歴史や文化の掘り起し

地名や町名の由来・ニシン漁の栄枯盛衰・義経伝説・しりべし奇岩物語 など

<p>海を自然体験・環境学習の視点から見る 海水から塩づくり・コンブ植林と磯焼け・貝拾いと創作・アニマルウォッチング・野鳥観察・山野草観察・漂着物の科学・スノーシュー など</p>
<p>地域情報の発信と受け入れの仕組みづくり</p>
<p>体験プロジェクトのネットワーク化 海・山・川の体験メニューの連携による地域全体としての周年型観光の対応 地域紹介と体験プログラム集の作成 後志地域のブルーツーリズムを共通イメージとして、地域をくくるストーリーを展開するガイドブック・地元キーマンへの取材による地域紹介 など 情報窓口と専門組織の設立 対外的な情報窓口の一本化・セールスやプロモーション部門の設置 など 宿泊施設との連携 民宿との連携・キャンプ場等の活用 など</p>
<p>遊漁や釣りの楽しみの提供</p>
<p>釣り客に対する情報提供や予約窓口の一元化 女性のための設備やサービスの充実 簡便な釣りシステム 多機能の釣りいかだ など</p>
<p>食と買い物の楽しみの充実</p>
<p>直販所の充実 魚の産直，インターネットセリ市 など 漁師の「郷土食」等の提供 プロのノウハウを活かした料理の開発 キャンプ客相手の新たなビジネス</p>
<p>海の楽しみを工夫</p>
<p>袋漕の活用 岩場を活用した潮風呂体験 シーカヤックでの奇岩巡り 漁業者が管理するダイビングスポット 文学作品に描かれた岬の風景 磯場の体験「海の観察園」 北の漁業集落の風景を見せる</p>

4. 成果の活用

本調査はプロジェクト提案に止まっているが、今後は個別プロジェクトに対する評価や地域意向の確認が必要である。この調査結果を基に、地元有志による研究会や協議会の立ち上げ、先進地域の視察や研修の実施、交流関係補助事業等の活用等を通して、地域内のコンセンサスの形成や実施体制の確立、プロジェクトの実施が期待される。